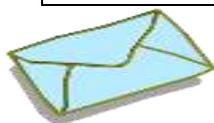


全国保健師長会
群馬県支部 **ミニつうしん**
令和元年度 第2号

発行日

令和2年1月20日

支部長 高橋雪子



支部長あいさつ

支部長 高橋 雪子

新年、明けましておめでとうございます。いよいよ2020東京オリンピックイヤーですね。昨年末から年始にかけ、少しばかり長い年末年始を穏やかにお迎えになられたことと思います。会員みなさまにおかれましては、日頃から保健師長会の活動に御理解、ご協力いただき厚く感謝申し上げます。

さて、昨年は台風により甚大な被害が各地であり群馬県でも被災された地域もあり、自然災害の恐ろしさを目の当たりにし、いっどこで災害が起きてもおかしくない時代だということが身近に感じられました。毎年言われておりますが、平常時の対策が非常に大切になっております。

昨年11月16日に行われました全国保健師長会代議員総会に出席させていただきました。基調講演では、「保健師の仕事とは?」、「保健師に求められる能力について」のお話があり、納得できる話でした。保健師は「人に関心があり、その人の立場で、生活者の視点をもてる」という大事な資質があるのだと改めて認識しました。

様々な職域の方が、今まで保健師がやってきたことを自分達もできると主張してきている昨今、「地域を知っているのは保健師、地域に必要な職種であることをアピールしましょう」

今年も保健師のリーダーとして後輩の人材育成はもとより、住民の健康を守っていくためONE TEAMとして力を発揮して欲しいと思います。会員の皆様のご活躍を期待しています。

前回のミニつうしん（8月15日発行）以降の事業等は、以下のとおりです。

◆全国保健師長会北関東・甲信越ブロック研修会

令和元年8月31日（土）茨城県水戸市

出席者：支部長、副支部長 会員1名（高崎市）

◆全国保健師長会代議員総会

令和元年11月16日（土）岡山県岡山市 ピュアリティまきび

出席者：支部長、会員1名（県）

総会、事業報告、役員改選

◆研修事業（群馬県庁保健師会と合同研修会）

令和元年12月7日（土）13時30分～16時 男女共同参画センター大研修室

「高齢者の保健事業と介護保険事業の一体的な実施に向けて」

講師：国民健康保険中央会 鎌形喜代実 調査役

「皆がつながる！健康寿命の延伸に向けた一体的な実施を目指して」

講師：群馬県後期高齢者医療広域連合 太田百合子 保健事業課長

出席人数：52人（会員40人、非会員12人）

北関東・甲信越ブロック研修会



参加報告

日時：令和元年8月31日

場所：茨城県立健康プラザ

高崎市役所 猪野 妙子

全国保健師長会北関東・甲信越ブロック研修会が茨城県水戸市茨城県立健康プラザで開催されました。出席者は、133名で開催県の茨城県からは、33名の参加がありました。

(1) 2019年度 全国保健師長会活動報告

全国保健師長会副会長

福島県南相馬市健康福祉部 部次長兼長寿福祉課長 山田祐子氏

・2019年度 活動方針 1 専門性の高い公衆衛生看護活動の強化、2 ブロック、支部活動の強化、3 各自治体における災害対策の取組の促進と被災地における保健師活動の発進、4 会員数の拡大とあり、最重点活動目標は、保健師活動の可視化及び質の向上、情報発信の強化、災害時保健活動の推進として「災害時の保健活動マニュアル」の改訂版を作成することのこと。

(2) 「災害時の保健活動推進マニュアルの作成」 事業報告

大阪市健康局健康推進部 保健主幹 松本 珠実氏

・平成29年度に自治体にアンケートを実施。防災計画上の保健師の役割は、被災者の健康管理、避難所の防疫対策、被災者のトリアージ、救護所の運営が多かった。また、準備状況として、避難所情報収集様式や災害時の保健医療チームの受療窓口があるとした自治体は少なかった。災害時の保健活動体制をまず確立することが大切であり、まず保健所に最初に到着した保健師が、指揮調整（情報 資源 庶務財務）の体制整備を行う。アクションカード、TO DO リストがあると迷わず実施できる。また、受援計画は、職員の参集計画、非常時優先業務、災害応急対応業務、応援業務の選定などの計画書を作成することが必要。東日本大震災後、保健師は保健医療活動チームとの協働や受援マネジメントなどの調整役割が増大している。職員間の連絡方法は、SNS が、機能するので、連絡チームを作っておくとよい。「災害時における保健活動推進マニュアル」の今回の改正は、事務職にも理解でき、若い保健師が一人でも動けるように健康課題別にチェックリストを作成している。

(3) 実践活動報告（4事例）

① 小山市の若年妊産婦支援（「ミニママクラス」事業）の取り組み

10代妊産婦の課題を把握し、仲間作り、育児力の向上、子育て支援・児童虐待の予防を目的にミニママクラスを開催した報告（5年目の保健師がまとめた）

② 茨城県職保健師の経験年数によるキャリアラダーの専門能力の特徴

中堅期では、実践活動に自信が無いことがわかり、「集団への支援」に対して自己評価が低いことが関連していると考えられた。このため、ジョブローテーションを行うことや、職場内での事業評価の徹底など、人材育成の目的を理解し主体的に取り組むことが必要である。

③ 長野市 糖尿病重症化予防を確実に進めるために

毎年度、健康課内の保健師を中心に事業検討のためのワーキンググループを設置している。生活習慣病予防対策ワーキングでは医師会の同意を得て、治療中の人にも保健指導を行うこととした。研修等の継続的な学習を重層的に行い、対象者 1,523 人に対し 73.1%に当たる 1,114 人へ糖尿病性腎症重症化予防保健指導を行った。

④ 新潟県 災害時における難病患者避難行動支援体制の構築に向けた保健所保健師の役割についての一考察

人工呼吸器の利用者全員に、個別支援計画を作成している。災害時避難訓練を実施し、具体的な実施方法・発災前の必要な準備体制・課題が明確化され、関係者で共有できた。

北関東自動車道を快調に走り、水戸市の会場に着いてからは、茨城県の理事や役員の皆様の温かいおもてなしを受けました。また、大阪市統括保健師さん、小山市の経験 5 年目の保健師さんなどのお話を聞き、「全国どこに行っても住民の健康といった共通の目的に真摯に取り組む保健師がいるんだなあ」とあらためて認識し、保健師という職業の誇らしさや、実践活動のすばらしさに刺激を受けてまいりました。日々の業務に活かして行きたいと思います。来年は、お米といくらとお酒の美味しい新潟県での開催です。皆さん、是非参加してみてくださいね。

全国保健師長研修会



日時：令和元年 11 月 14 日、15 日

場所：岡山県メルパルク岡山

藤岡保健福祉事務所 島村 利枝

令和元年度全国保健師長研修会は、令和元年 11 月 14 日（木）・15 日（金）の 2 日間岡山県メルパルク岡山において、「地域に責任をもつ保健師マインドを育てるリーダーの役割」をテーマに開催されました。全国から約 370 名の参加があり、群馬県からの参加は 1 名でした。

研修 1 日目は、人材育成のあり方について国立保健医療科学院成木弘子主任研究官から、「ともに分かち合う保健師人材育成に果たすリーダーの役割」の講演があり、続いて「保健師人材育成に果たすリーダー保健師の役割」についてシンポジウムで実践報告（自治医科大学・岡山県・三重県）とグループワークがありました。さらに全国保健師長会山野井尚美会長から「これからの保健師活動に求められること」の講演がありました。

従来の人口増加を前提とした制度や運用とは大きく異なり、人口減少時代に合った新しい社会経済モデルが必要であり、2040 年を見据えた長期的な人材育成や効率的・効果的な事業展開が求められます。将来を見越したリーダーの役割として①自らが成長し続ける、②エンパワーマネジメントを発揮する、③変化に応じて自律的に活動できる組織風土を醸成することを学びました。

実践報告では、OJT と OFF-JT を連動させた人材育成の取り組み、経験年数に応じた研修の実施、現任教育や統括保健師の配置等の体系的な人材育成の強化など、各自治

体で工夫を凝らした手法を知ることができ、人材育成を展開するにあたり貴重なヒントを得ることができました。

研修 2 日目は、厚生労働省健康局健康課保健指導室加藤典子室長から「地域保健をめぐる国の動向」、聖路加国際大学麻原きよみ教授から「地域特性に応じた保健活動の推進」、大阪市松本珠美保健主幹から「災害時及び災害を想定した平時からの保健活動の推進」の各講演と、「災害時における保健師リーダーシップとマネジメント」をテーマに実践報告（大阪府・長崎県・高知県）と意見交換がありました。

自治体保健師の標準的なキャリアラダー（保健師能力の成長過程を段階別に整理した目標・評価指標）の説明があり、人材育成は人事部門と連携が必要とのことでした。

また、統括保健師を配置することで、組織横断的な調整能力を発揮し、成果につながるメリットを周知していく必要性を感じました。

さらに、平時から災害時の保健活動のあり方について検討した結果を踏まえ、「災害時の保健活動マニュアル」が今年度中に完成予定です。被災自治体となった場合、受援体制の整備が重要となります。平時から、業務継続計画の立案や支援ニーズの情報収集、分析、受援調整について備えておくことが必要です。当保健福祉事務所でも災害時の情報分析、受援調整について研修会を開催したところであり、災害対策の取組について大変参考となりました。慌ただしい時期にもかかわらず、快く県外研修に送り出していただいた職場と関係者に感謝し、今後の活動に活かしていきたいと思えます。

第41回全国保健師長会代議員総会



日時：令和元年11月16日

場所：岡山県岡山市

ピュアリティまきび

支部長 高橋 雪子

令和になって初めての代議員総会が岡山県で行われました。

東邦大学看護学部岸教授による基調講演があり、続いてシンポジウムでは、「地域に責任を持った保健師活動について」県、市町村、政令指定都市のそれぞれの立場から発表がありました。県の立場として徳島県にし阿波地域の精神保健福祉対策に関わって学んだこと、市町村の立場として出雲市役所より健康づくりの推進するため地域組織と協働しての働きかけ、その中での保健師の役割や人材育成の話、最期に岡山市の地域組織への育成と人づくり、分散配置と地区担当制をうまく連携した活動の紹介がありました。

管理期の人材育成や時代が変化しても後輩達に伝えていくべきもの、共通して地域を診ていき、それを組織化すること。まずは地域に出向いて自分で診ていく、それができるのは保健師であると。保健師は隙間産業ではなく人と人を繋げ（結び）狭間を埋めて、先を予測した地区診断（アセスメント）をすることができる。保健師の活動に自信が持てるシンポジウムでした。

（代議員総会）

・会員数 5,538 人 (R1.8 月) 代議員 276 人 (群馬県代議員数 5 人、出席 2 人、委任状 3 人)

総出席者 153 人、委任状を加えての代議員の 1 / 2 以上を超えて総会は成立。

- ・ 主な議題では、令和 2 年度の活動方針として活動テーマを“未来を創造する公衆衛生看護活動の展開”～保健師活動の原点から住民とともに創る未来～となり、より専門性の高い公衆衛生活動の推進するため統括的な役割を果たす保健師を明確にすることが大切。
- ・ 「災害時における保健師活動マニュアル」の活用を促し、各自治体の災害対策の取り組みを強化していくことの活動方針が決められました。
- ・ 次年度の事業では、全国の先進事例をホームページに掲載し情報の提供を図っていくことなどが決められました。
- ・ 令和 2 年度の第 42 回代議員総会は大分県で実施予定です。

全国保健師長会群馬県支部研修会



日時：令和元年 12 月 7 日(土) 13 時 30 分～15 時 30 分

場所：ぐんま男女共同参画センター大会議室

前橋市役所 望月 恵

令和元年 12 月 7 日(土)に、全国保健師長会群馬県支部と群馬県庁保健師会の合同研修会が、ぐんま男女共同参画センターにて開催され、保健師長会と県庁保健師会の会員や会員以外の保健師おおよそ 50 名の参加がありました。

はじめに、国民健康保険中央会の鎌形喜代実調査役から「高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的な実施に向けて」について、講演がありました。

団塊の世代全員が 75 歳以上になる「2025 年問題」が論議の対象となっていました。今では社会保障制度の点から団塊ジュニア世代全員が高齢者となる時期である「2040 年問題」へと焦点が変わってきています。

保健事業と介護予防を一体的な実施に向けてさまざまな視点から講演をいただいた中で、「保険者機能強化」では、健診データやレセプトデータを活用し、課題を見つけ出し、事業を行い、評価していくことを強力にしてほしいという話を伺い、現実にはデータを上手く活用できていないこと、評価ができていないことを改めて反省し、今後データ活用しその結果を住民に役立つ情報として提供し、普及活動に役立ていけるように取り組んでいきたいと思えます。また「高齢者の保健事業の実施にあたっての関係者の役割」では、広域連合、市町村、都道府県・保健所、国保中央会・国保連合会でそれぞれの求められる役割の違いがあり、市町村では高齢者医療、国保、健康づくり、介護等の各部署間の体制整備が求められ、全庁的な検討体制を確立することが望ましいとされています。本市でも、それぞれの部門で事業を展開しています。その中で、高齢者保健事業の推進に向けて、各担当課が一堂に集まり会議を開催してきましたが、今後は今まで以上に会議等にて、各部署の連携を強化し、効果的に事業を展開していきたいと思えました。

後半では群馬県後期高齢者医療広域連合の太田百合子保健事業課長より「皆につながる！健康寿命の延伸の向けた一体的な実施を目指して」についての講演がありまし

た。

今回後期高齢者医療広域連合の保健事業課のこれまでの取り組みから得られたこと、これからの事業展開（スケジュール等）を伺いました。前半の講演の中でも、KDB（国保データベース）システムを活用し、フレイルのおそれのある高齢者等、支援すべき対象者を抽出や、地域の健康課題を把握する。また、KDBシステムのデータに加え、市町村が有する介護予防・日常生活圏域ニーズ調査のデータ等も活用し、地域の健康課題の整理分析を行う、とされていました。太田百合子保健事業課長より、KDB市町村別データおよび、全国の人口同規模自治体との比較も明記されていたことで、改めて本市の状況把握ができ、保健事業における取組を検討することができましたことを踏まえ、今後KDBシステムを上手く活用していきたいと思いました。

今回研修を受講し、最新情報や私たちが取り組まなければならないことを知ることができました。地域の中で保健師だからこそ見えて、私達が中心となり出来る事、事業に携わる一人一人が他人事ではなく自分事として大きな視野でとらえてこそ本当に社会を変えていくことが出来ると実感いたしました。

そして、先生方におかれましては年末の公私ともにご多忙のなか、ご講演いただいたことに感謝申し上げます。



<鎌形講師>



<太田講師>

<令和2年度の研修会について>

次回の研修会は、令和2年6月6日(土)に群馬県支部総会後に開催します。研修の詳細・講師は未定ですが、皆さまの力になるお話しをいただけるものを検討中です。皆さまの参加をお待ちしています。



編集後記



今年の冬は暖冬・雪不足と言われていますが、年齢のせいか、寒さはひしひしと身にしています。インフルエンザが猛威を振るい、高熱を出している方も多いようです。体調管理に心がけ免疫力を高めて、公私ともども充実できるよう頑張っていきましょう。